

※ 2020年度（令和2年度）は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。

令和元年度「大学教員の企業現場研修」の実施報告

第1回 日本電気株式会社の協力による大学教員の企業現場研修

1. 研修テーマ：社会価値創造企業における人材育成・人財確保を現場で学ぶ
2. 研修目的：本研修では、社会に貢献し、新たな価値を社会とともに創造していくNECの技術開発や、それを支える人材育成について紹介します。また、若手社員との交流を通じて大学教育に求められる学びについて考えるきっかけづくりとします。
3. 研修企業：日本電気株式会社
4. 開催時期：令和2年2月18日（火）13：30～17：30（13：00受付開始）
5. 開催場所：NEC本社ビル
6. 参加者数：23名（内、情報交換会参加15名）
7. プログラム：

13：30 **事業の概要紹介**

日本電気株式会社の会社概要・事業等について

13：55 **ICT活用事例の紹介**

顔認証や群衆行動解析を始めとする生体認証、行動検知・解析技術を中心としたICTの利活用により、世界最大のイベントにおける厳重かつスムーズな安全・安心対策について

社員教育制度の紹介

「Code of Values」をベースとしたNECの社員育成制度について

若手社員との意見交換（大学での学びについて）

社会人になってから今までの経験を通じて、大学時代にやっておけば良かったと思うことや大学時代に役立った経験・授業はどのようなことだったのか等について若手社員から発表し、意見交換

17：30 終了

17：30 情報交換会

8. 実施結果

アンケートでは、参加者の殆どが「他の教員にも紹介したい」、「授業に役立つ」と回答している。

〔特徴的な意見〕

- ① 若手社員から社会で必要な力としてコミュニケーション能力があげられ、PBLやアクティブ・ラーニング、学会発表の経験が役に立ったとの意見があり、チームで協働し問題解決を行うことや、意見交換・発表機会を設ける授業の必要性を強く感じた。
- ② 若手社員から、専門分野を越えた幅広い学びの必要性が指摘され、そのために興味・関心を持たせる指導や相談ができる体制が望まれることが指摘され、企業の意見を聴く機会は貴重であることを強く感じた。
- ③ 学んだ知識をもとに論理的に考える訓練、社会的な問題にどう取り組むか、いろいろな手段方法を用いて経験させていくPBLが必要であることを感じた。



第2回 株式会社日立製作所の協力による大学教員の企業現場研修

1. 研修テーマ : 私たちの生活を支える デジタルソリューション活用事例の紹介
2. 研修目的 : IoT の急速な普及や 先進的なデジタル技術により、一人ひとりの QoL (クオリティ・オブ・ライフ) や幸福度を高める新しいサービスが 生み出されています。本研修では、日立の IoT に対する取組みが、私たちの生活にどのように関わっているか、事例を用いて紹介します。また、日立の求める人財像と、社員教育制度を紹介するとともに、若手社員を交え、社会人としての視点から、大学教育に求められる事を整理し、今後の教育の参考として頂く為の意見交換を行います。
3. 研修企業 : 株式会社日立製作所
4. 開催日時 : 令和 2 年 2 月 25 日 (火) 13 : 30 ~ 17 : 00
5. 開催場所 : 株式会社日立製作所 ハーモニアス・コンピテンス・センター
6. 参加者数 : 16 名 (新型コロナウイルスの感染防止のため情報交換会は中止)
7. プログラム :

13 : 30 事業の概要紹介・人材育成の取組み

日立グループが展開する社会イノベーション事業に関する事業フィールドや事業戦略、求める人財像の紹介、採用面での取組み、入社後の人材育成など、採用・育成戦略について

14 : 30 若手社員との意見交換 (大学での学びについて)

若手社員より、大学時代に経験したかったことや役立ったことなどを説明し、社会人としての経験を通じて、大学教育に求めたいことや必要だと考えられることについて意見交換

15 : 30 最先端 ICT 活用事例の紹介 (ショールーム見学)

日立の最先端の IT (Information Technology) と OT (Operational Technology) を組み合わせたデジタルソリューションを提供し、社会が抱える課題を解決することで、人々の QoL (クオリティ・オブ・ライフ) の向上をめざし、私たちの生活の中で日立のデジタルソリューションがどのように関わっているか、事例やデモンストレーションを交えて紹介。

17 : 00 終了

8. 実施結果

アンケートでは、8割程度が「他の教員にも紹介したい」、9割以上が「授業に役立つ」と回答している。

[特徴的な意見]

- ① 日立製作所の人材育成の取組みで、企業がどのような人材を求めているのか具体的な人物像を知ることができた。
- ② 若手社員との意見交換で、ゼミ・イベント・学会発表などの経験によるコミュニケーション能力を高める機会や、他学部の学生などとの多様な意見を知る機会をつくる必要があることを強く感じた。
- ③ 複数分野を専攻できるしくみが望ましいなどの意見が出され、学部の枠を越えて学べる仕組みを構築するなど、授業改善を考える貴重な機会となった。
- ④ 若手社員から「大学の学びが社会でどのように役立っているか」を聞き、大学の授業現場で社会人の生の声として、学生に伝えるとともに授業プログラムの設計に生かしていきたいと思った。



第3回 株式会社内田洋行の協力による大学教員の企業現場研修

1. 研修テーマ : Society 5.0 に向けた情報の価値創造と ICT 人材の育成
2. 研修目的 : 今回の研修では、「Society5.0」時代の教育で求められる「ICT の先進技術」と「教育ビッグデータ」活用の可能性について当社の 取り組みと事例を交えご紹介致します。併せて、企業の求める人材像を共有するため ICT の システム構築に関わる若手社員との意見交換を行いこれからの大学教育に求められる具体的な事柄について課題を整理します。
3. 研修企業 : 株式会社内田洋行
4. 開催日時 : 令和 2 年 3 月 4 日 (水) 13:00~16:30
5. 開催場所 : 株式会社内田洋行 ユビキタス協創広場 CANVAS
6. 参加者数 : 14 名 (新型コロナウイルスの感染防止のため情報交換会は中止)
7. プログラム:

13:00 会社概要と事業領域の紹介

株式会社内田洋行の会社概要・事業等について

13:20 未来の教育を体験～ICT を活用した2先進事例の紹介

「アクティブ・ラーニングスペース」の事例紹介とともに、ICT を活用したこれからの「未来の教育」の紹介と見学、体験

13:50 「内田洋行」が求める人材像について～採用基準と社員教育プログラム等の紹介～

内田洋行の社員教育プログラムを通じて、「情報の価値化と知の協創をデザインする企業」を目指して取り組んでいる人材育成の考え方や仕組みの紹介と意見交換

14:40 Society5.0 時代の教育を支える先端技術と教育ビッグデータ活用に向けた取り組み

未来の日本を支える子どもたちに、個別に最適化された教育をどのように届けていくか。当社が取り組む教育現場での ICT 先端技術の利活用と教育ビッグデータ活用の可能性の紹介と意見交換

15:30 システムエンジニア・営業業務の紹介と若手社員との意見交換

システムエンジニア及び営業若手社員から業務内容、必要なスキル、ICT 企業の最新の課題や実態を発表し、求めるシステムエンジニアに 関する人材像、キャリアアップについての考え方などを紹介、その後若手社員との意見交換

16:30 終了

8. 実施結果

アンケートでは、参加者の9割強が「他の教員にも紹介したい」、全員が「授業に役立つ」と回答している。

〔特徴的な意見〕

- ① 人事労務管理や人材育成の取り組み紹介が大変参考になった。考える癖をつける機会を多く設けること、批判的思考力を身につけることが社会に出てから大切であることが実感できた。どのようにして学生の思考力を高めるかを考えながら、自らの授業に活かして行きたい。
- ② 若手社員から、PBL など多様な意見を知ることが役立つことや、教員はすぐに答えを教えるのではなく批判的に考える力を育めるようにしてほしい、グループワークと発表の機会を多く設けることが望まれるなどの意見があり、授業改善の必要性を強く感じた。
- ③ 大学教育で、学生にリスクを伴う課題に取り組ませ、失敗を経験させる機会を設ける必要性があると感じた。予測できない課題に対していかに適応していくか、経験から学ぶことの重要性を感じた。
- ④ 大学の教員側に、能力（コンセプチュアルスキル、ビジョンリーダーシップ）と、意識変革、行動特性、教育スキルの向上が必要な転換期にあるのではないかと感じた。



第4回 富士通株式会社の協力による大学教員の企業現場研修

1. 研修テーマ : DX (デジタル・トランスフォーメーション)時代の ICT 活用
2. 研修目的 : DX (デジタル・トランスフォーメーション)をキーワードに AI、ビッグデータ、IoT など最新技術が進展し社会に急速に浸透してきています。このような社会において、現実の課題を解決しながら活躍できる人材育成を企業の実例をもとに考える機会にします。また、ICT 業界で高い専門性をもって活躍する人材育成に向けた社員教育制度の紹介や若手社員との交流も交えて、企業の求める人材と大学に求められる教育について意見交換を行い、改めて人材育成を考えるきっかけづくりとします。
3. 研修企業 : 富士通株式会社
4. 開催日時 : 令和2年3月5日(木) 13:00~17:00
5. 開催場所 : デジタル・トランスフォーメーション・センター
6. 参加者数 : 14名(新型コロナウイルスの感染防止のため情報交換会は中止)
7. プログラム :

13:00 富士通における人材育成への取組み

富士通の事業概要をはじめ、社会の変化に対応可能な人材育成体系の紹介と、大学で身につけて欲しい基礎知識、能力等について意見交換

14:00 ICT 先進活用事例の紹介と意見交換(1)「信頼でデータ利活用を支えるデータプラットフォーム」

信頼できるデータ利活用のためのプラットフォームでブロックチェーンをベースとしたテクノロジーで支えようとしており、ヤフーとLINE が経営統合するなど、デジタルデータをめぐる動きが活発になる中「パーソナルデータの活用」VS「プライバシーの侵害」という課題に対し、社会実装の事例や未来予測を交えて最適解を紹介

15:10 ICT 先進活用事例の紹介と意見交換(2)「自動採点システムから広がるスポーツの未来」

国際体操連盟と共同で 3D センシング/AI による体操プロジェクトを推進しており、独自の技術を活用し、「する」「観る」「支える」の観点からスポーツの新たな世界の実現を目指した取組の状況を紹介

16:10 若手社員との意見交換(大学での学びについて)

社会人になってから今までの経験を通じて、大学時代に役立った経験・授業や大学に対して望みたいことなどについて発表と意見交換

17:00 終了

8. 実施結果

アンケートでは、参加者の8割が「他の教員にも紹介したい」、9割が「授業に役立つ」と回答している。

[特徴的な意見]

- ① デジタルトランスフォーメーションについて、グローバルな動向、国内の動向、社会的背景なども含めた説明が大変ためになった。このような最新の情報を同僚や学生に伝え、授業を改善していきたいと思う。
- ② 大学教育の出口となる企業がどのような人材を期待しているのかが確認できた。企業が求める人材のイメージを持つことができた。大学がこのようなことを知る機会は貴重であり今後も継続してほしい。
- ③ 求める人材像は「社会課題の解決に強い問題意識を持った人材」という考えが印象的であり、課題解決を訓練するPBL教育の有用さが確認できた。学修課題やグループワークの工夫などをさらに考えて行きたい。
- ④ 若手社員の意見で、「もっとアウトプットする機会を増やせば、学生は覚える学修から自ら学ぶ意識が高まるのではないか」、「相手に正確に伝え、理解してもらうコミュニケーション能力が最も重要」などの意見や感想が紹介され、社会や企業で求められる人材像を踏まえた教育や人材育成を考える必要があることを強く認識した。

